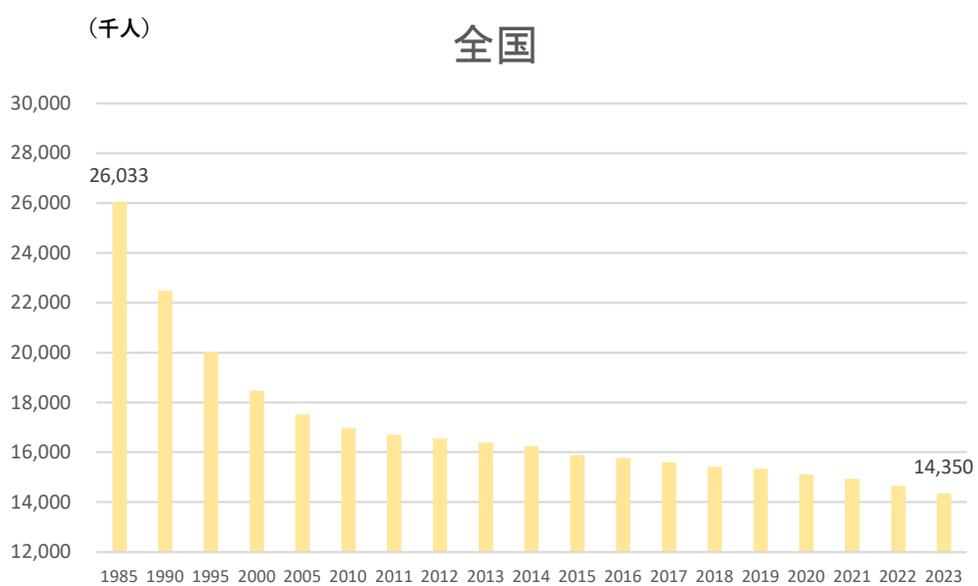
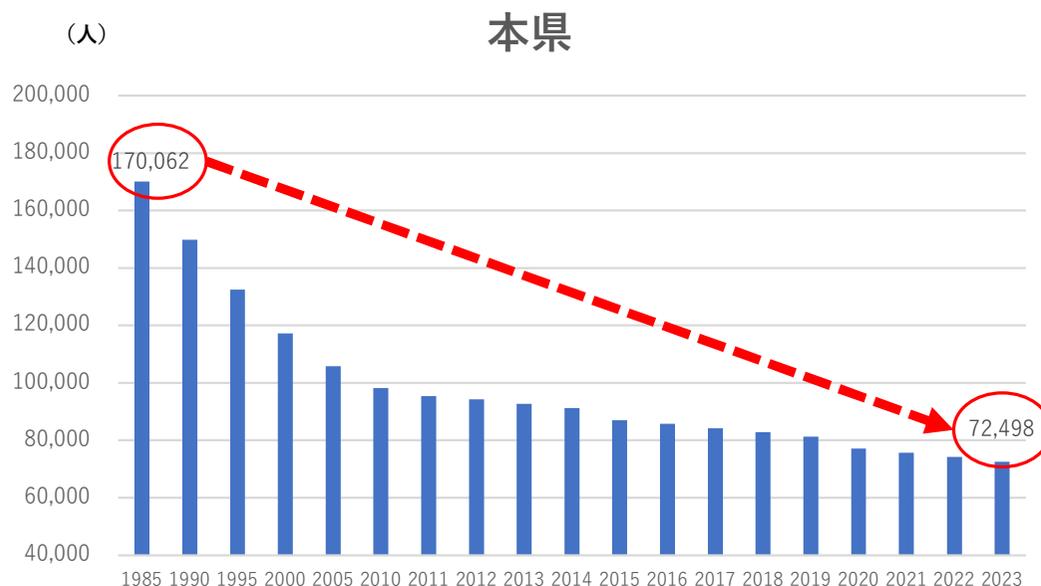


子どもを取り巻く現状と課題

【目次】

- こどもの数の推移（本県・全国） 1
- 出生数・合計特殊出生率の推移（本県・全国） 2
- 未婚化・晩婚化の進行（本県・全国） 3
- 晩産化の進行（本県・全国） 4
- 結婚への考え方（本県）（1）結婚意向 5
- 結婚への考え方（本県）（2）結婚していない理由 6
- 理想とすることどもの数（本県） 7
- 不妊治療の状況について（全国） 8
- 就労の状況（本県） 9
- 県内事業所における過去1年間の育児休業対象者数と取得者数について（本県） 10
- 就学前児童数及び保育所等利用率、待機児童数の推移（本県） 11
- 児童虐待相談対応件数の推移（本県・全国） 12
- 一時保護の推移（本県） 13
- 入所措置又は里親等委託されている子ども数の推移（本県） 14
- 里親委託率の推移（本県・全国） 15
- ヤングケアラーの状況（本県） 16
- いじめの状況（本県・全国） 17
- 不登校の状況（本県・全国） 18
- 放課後児童クラブ（本県） 19
- 放課後等デイサービスの現状（本県・全国） 20
- こども食堂への参加意向（本県） 21
- こどもの進学段階に関する希望・展望（本県・全国） 22
- こどものインターネット利用状況（全国） 23

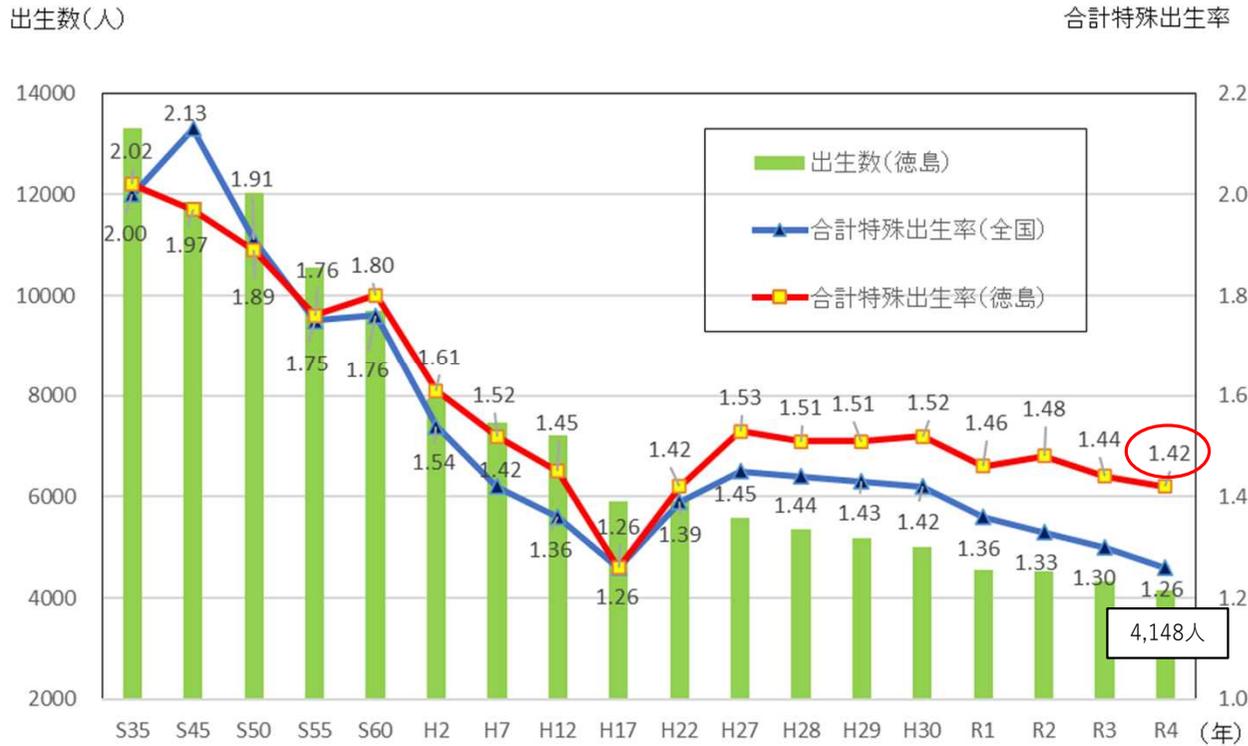
○こどもの数の推移（本県・全国）



- ◆本県の年少人口（15歳未満のこどもの数）は、令和5年に72,498人で、全国の傾向と同じく減少。
- ◆1985年（昭和60年）の170,062人から、**半数以下に減少**。

出典：国勢調査（総務省）、徳島県人口推計（徳島県）

○出生数・合計特殊出生率の推移（本県・全国）



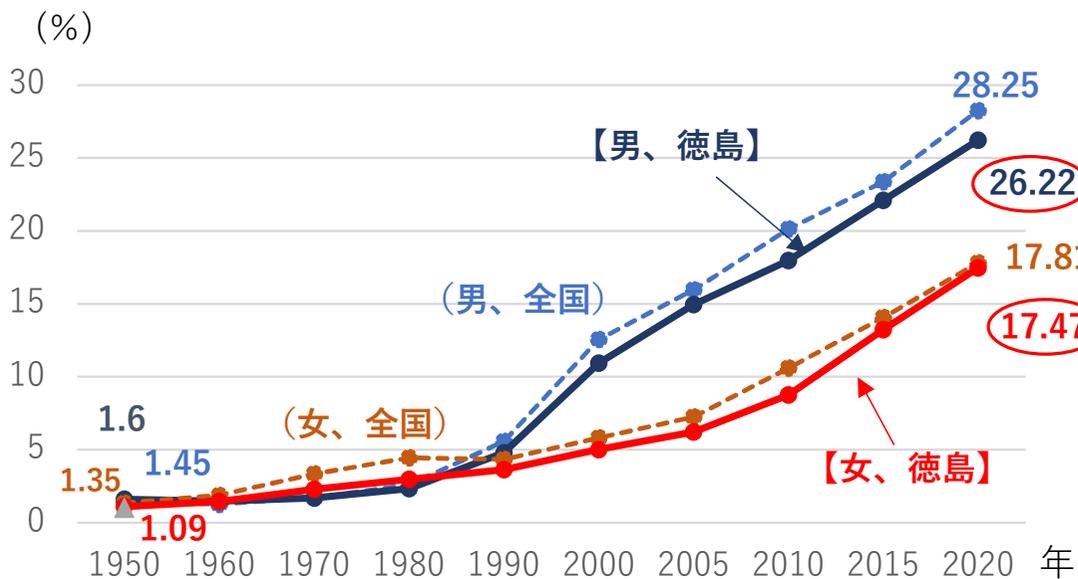
◆令和4年の本県の合計特殊出生率は、**1.42**（前年比▲0.02）で全国平均の1.26を上回っている。

◆出生数は**4,148人**。全国の77,759人とともに、**過去最小を更新**。

出典：人口動態統計（厚生労働省）

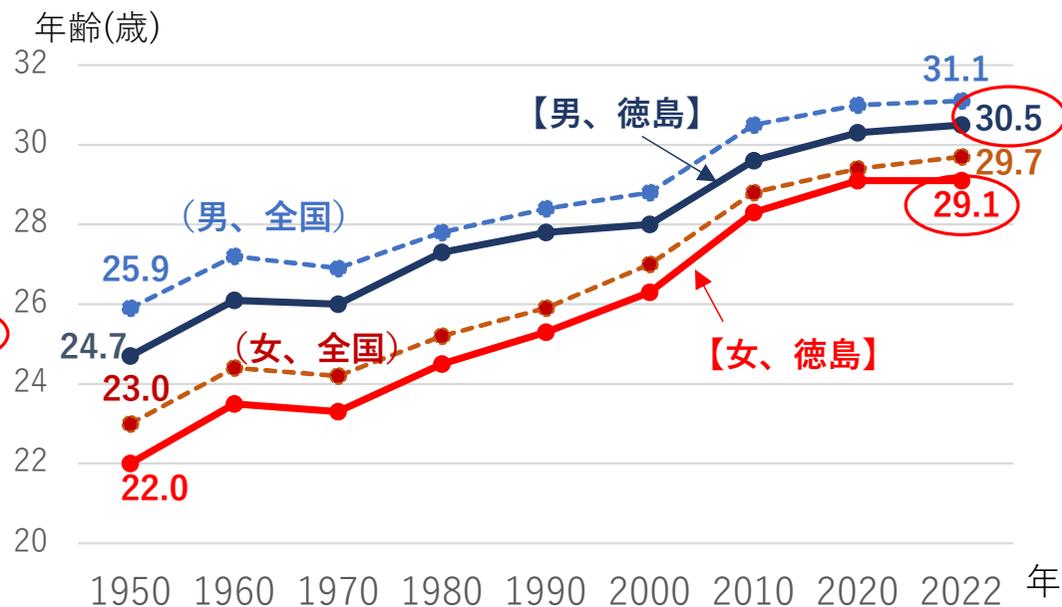
○未婚化・晩婚化の進行（本県・全国）

生涯未婚率（徳島県・全国）



出典：国勢調査（総務省）

平均初婚年齢（徳島県・全国）

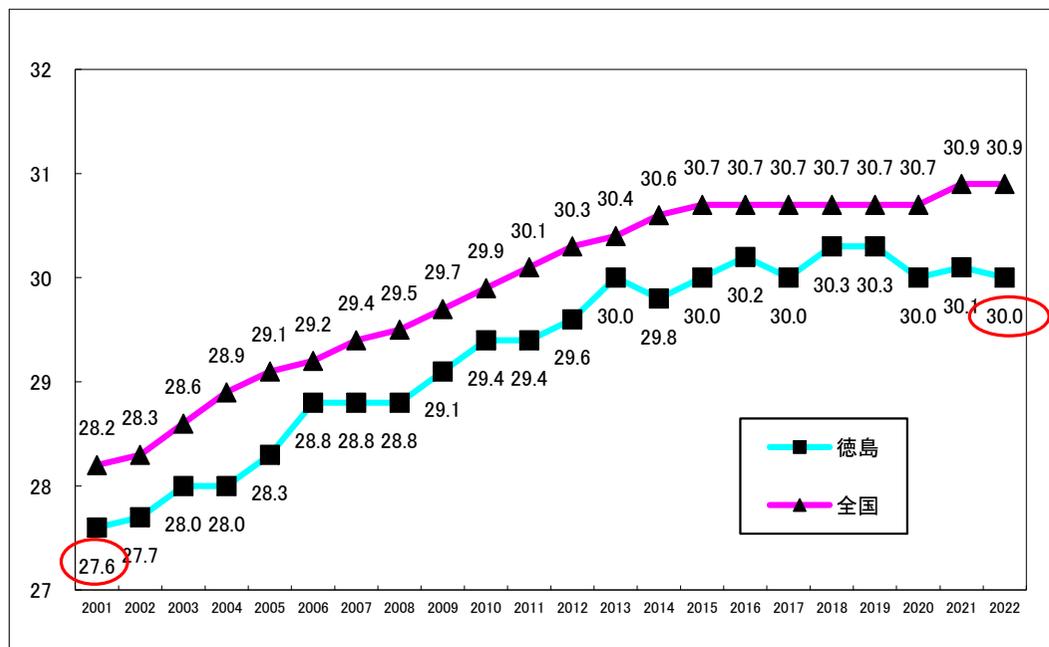


出典：人口動態統計（厚生労働省）

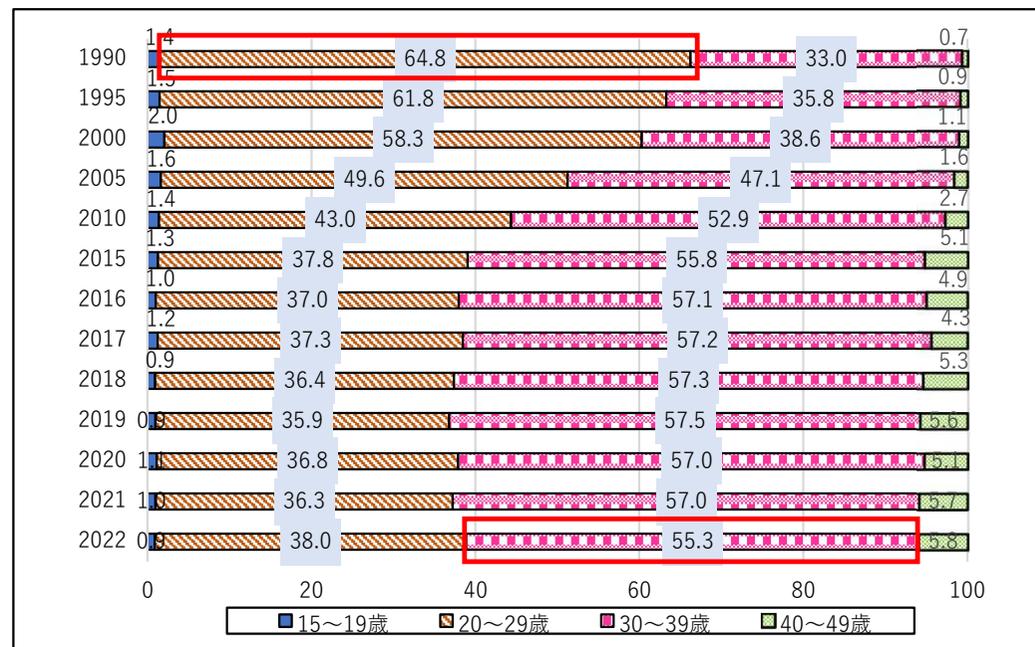
- ◆生涯未婚率：1990年を境に大幅に上昇し、2020年時点で**本県の男性の3.8人に1人、女性の5.7人に1人が未婚**
- ◆平均初婚年齢：徳島県の2022年は、**男性30.5歳、女性29.1歳**で1950年から男性で5.8歳、女性で7.1歳上昇

○晩産化の進行（本県・全国）

第一子出生時の母の平均年齢の推移（本県・全国）



年代別出生数の割合の変動（本県）

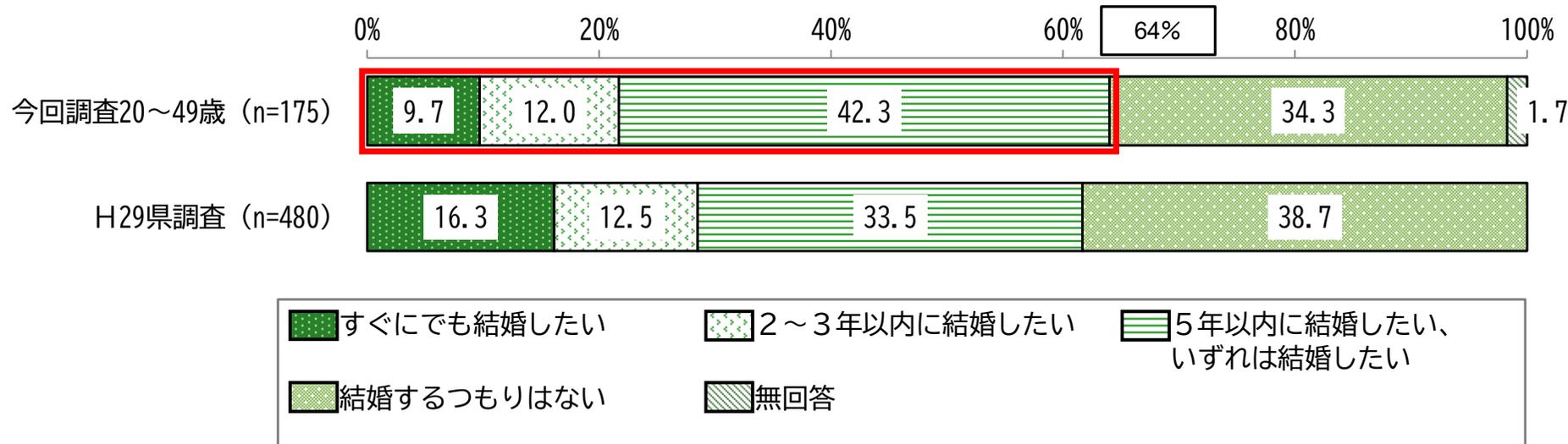


- ◆ 第一子出生時の母の平均年齢：徳島県の2022年は**30.0歳**、2001年の27.6歳と比較して2.4歳遅い
- ◆ 母の年代別出生数の割合：徳島県の1990年は20歳代で64.8%で最多に、2022年では**30歳代が55.3%と過半数**

出典：人口動態調査（厚生労働省）

○結婚への考え方（本県）

（1）結婚意向



※H29県調査における、「できればいつか結婚したい」を「5年以内に結婚したい」、「いずれは結婚したい」と、「あまり結婚したくない」、「結婚したくない」を「結婚するつもりはない」と比較した。

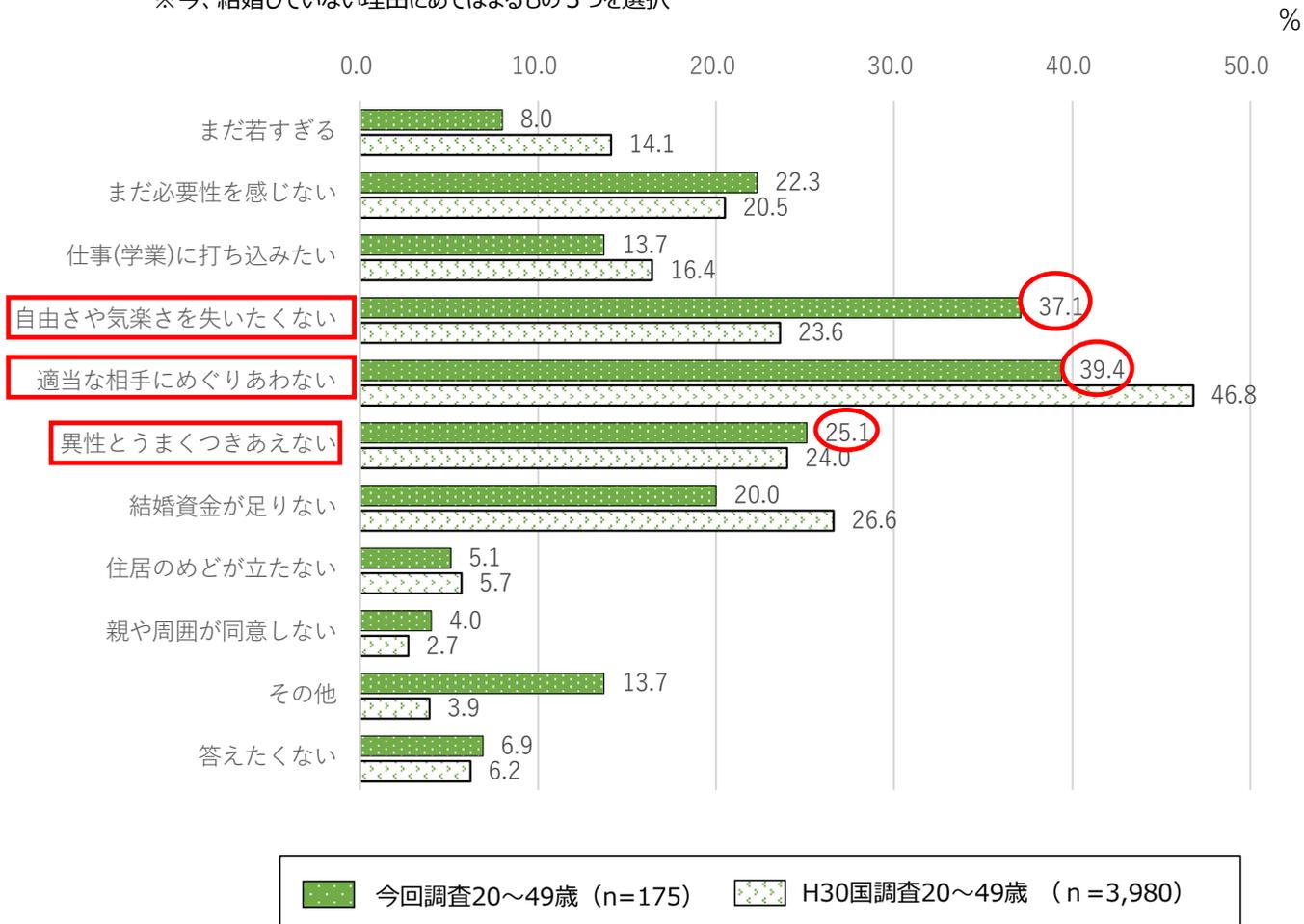
◆結婚意向については、「すぐにでも結婚したい」～「いずれは結婚したい」を合算すると64%

出典：令和5年結婚・子育てに関するアンケート調査（徳島県）

こどもを取り巻く現状と課題

(2) 結婚していない理由 (本県)

※今、結婚していない理由にあてはまるもの3つを選択

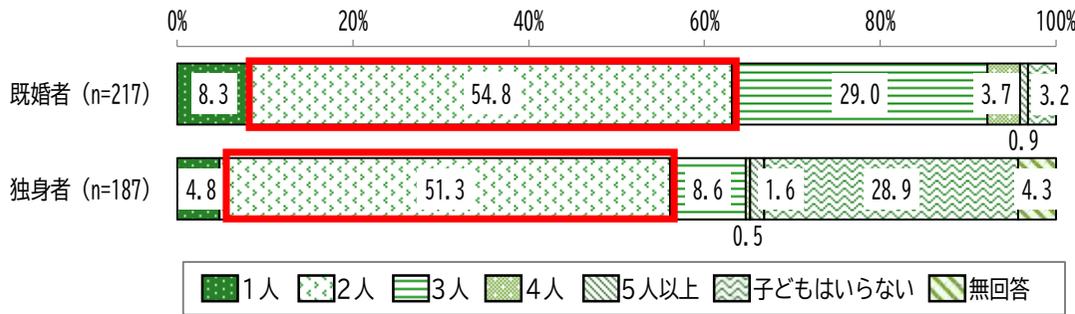


◆結婚していない理由については、「**適当な相手にめぐりあわない**」が最も高く、「自由さや気楽さを失いたくない」、「異性とうまくつきあえない」と続いている。

出典：令和5年結婚・子育てに関するアンケート調査（徳島県）

○理想とするこどもの数（本県）

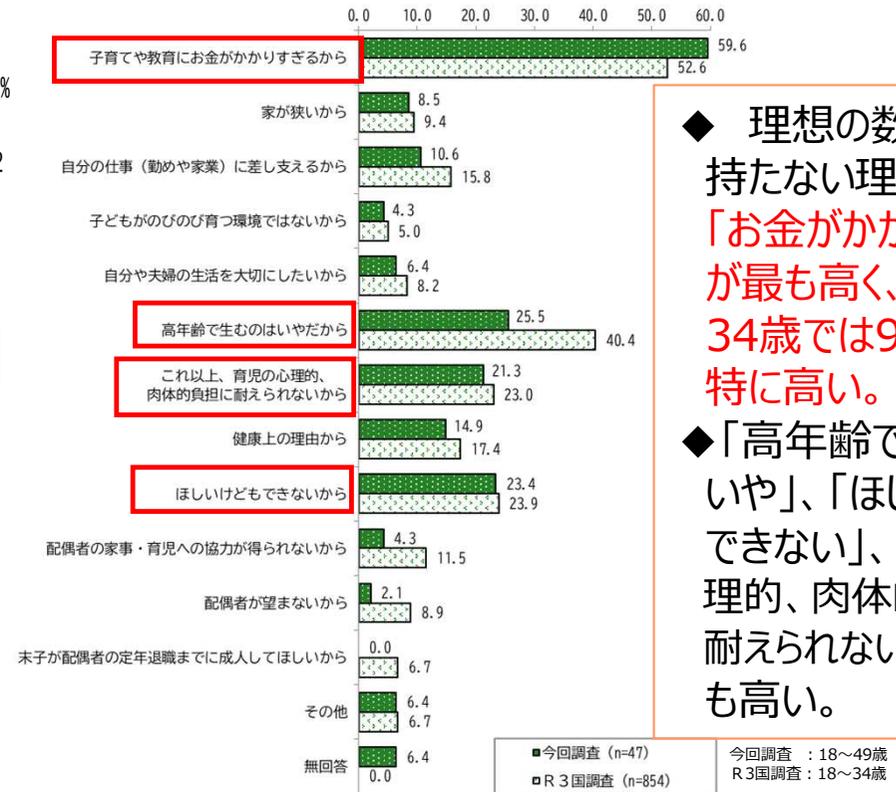
【既未婚別、理想的な子どもの数】



◆ 理想的なこどもの数は、既婚者、独身者ともに「2人」が最も高い。

【理想の数のこどもを持たない理由】

対象：「理想とするこどもの数」より「持つつもりの子どもの数」が少ない人



◆ 理想の数のこどもを持たない理由として、「お金がかかりすぎる」が最も高く、18歳～34歳では91.7%で特に高い。

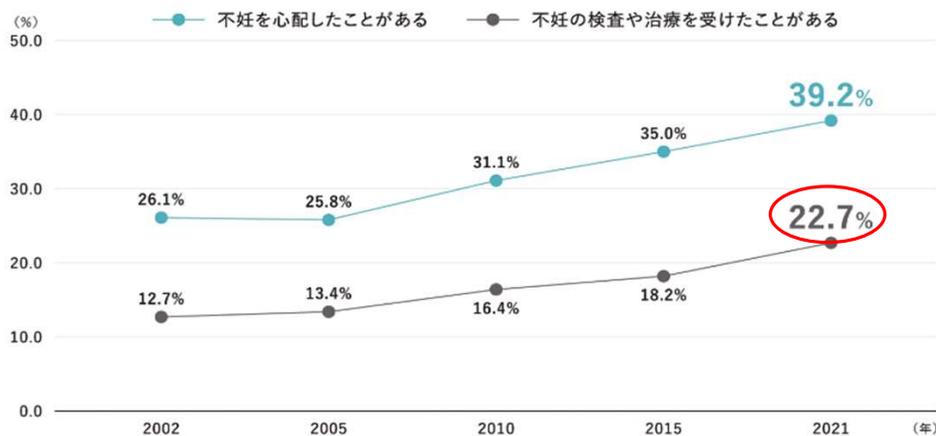
◆ 「高年齢で生むのはいや」、「ほしいけどできない」、「育児の心理的、肉体的負担に耐えられない」の割合も高い。

※R3国調査では選択肢のうち、「配偶者の家事・育児への協力が得られないから」は「夫の家事・育児への協力が得られないから」、「配偶者が望まないから」は「夫が望まないから」となっている。

出典：令和5年結婚・子育てに関するアンケート調査（徳島県）

○不妊治療の状況について（全国）

不妊の検査や治療を受けたことがある夫婦の割合



出典：国立社会保障・人口問題研究所「2002年社会保障・人口問題基本調査」、「2005年社会保障・人口問題基本調査」、「2010年社会保障・人口問題基本調査」、「2015年社会保障・人口問題基本調査」、「2021年社会保障・人口問題基本調査」

全出生児に占める生殖補助医療による出生児の割合



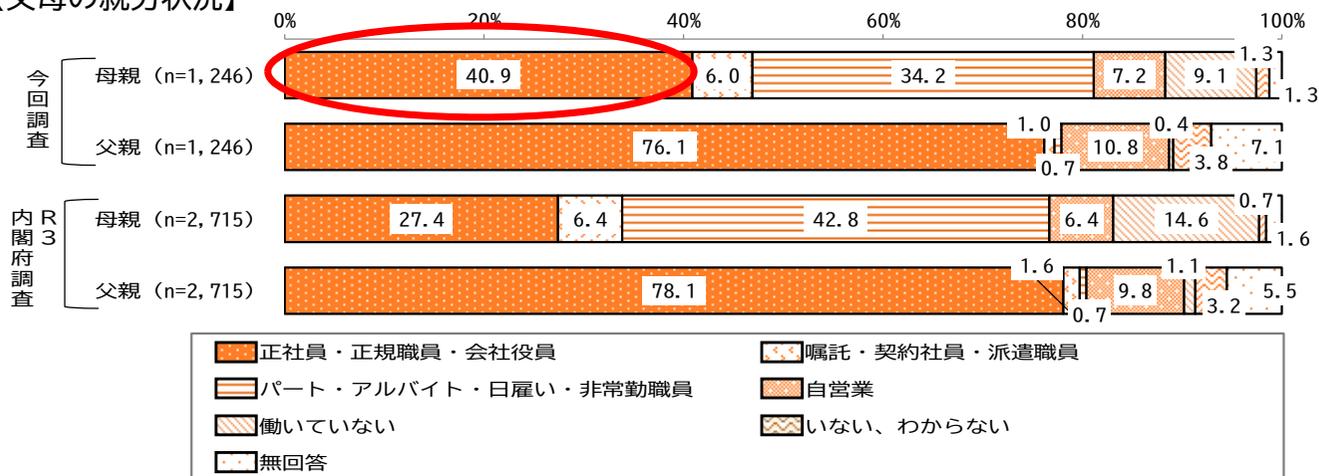
出典：生殖補助医療による出生児数：公益社団法人日本産科婦人科学会「ARTデータブック(2021年)」
全出生児数：厚生労働省「令和3年(2021年)人口動態統計(確定数)」

- ◆ 不妊の検査・治療の経験がある夫婦の割合は年々増加し、2021年は、**22.7%**と、「約4.4組に1組」である。
- ◆ 2021年に、体外受精や顕微授精といった「生殖補助医療」により生まれた赤ちゃんは、6万9,797人であり、全出生児数に占める割合は、**8.6%**で、「約12人に1人」である。

出典：こども家庭庁ホームページ (<https://funin-fuiku.cfa.go.jp/dictionary/theme03/#sec01>)

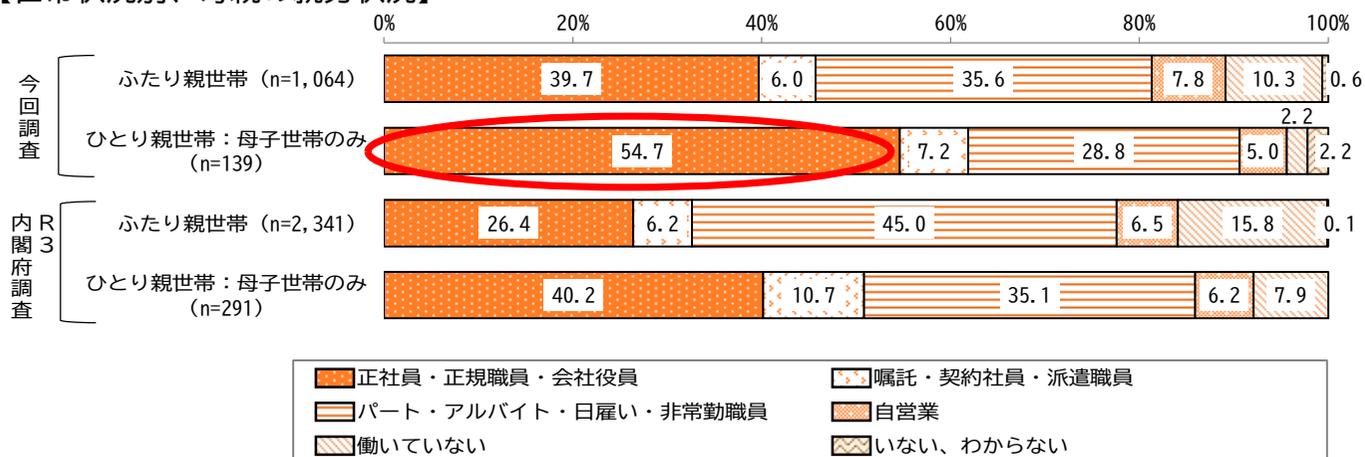
○就労の状況（本県）

【父母の就労状況】



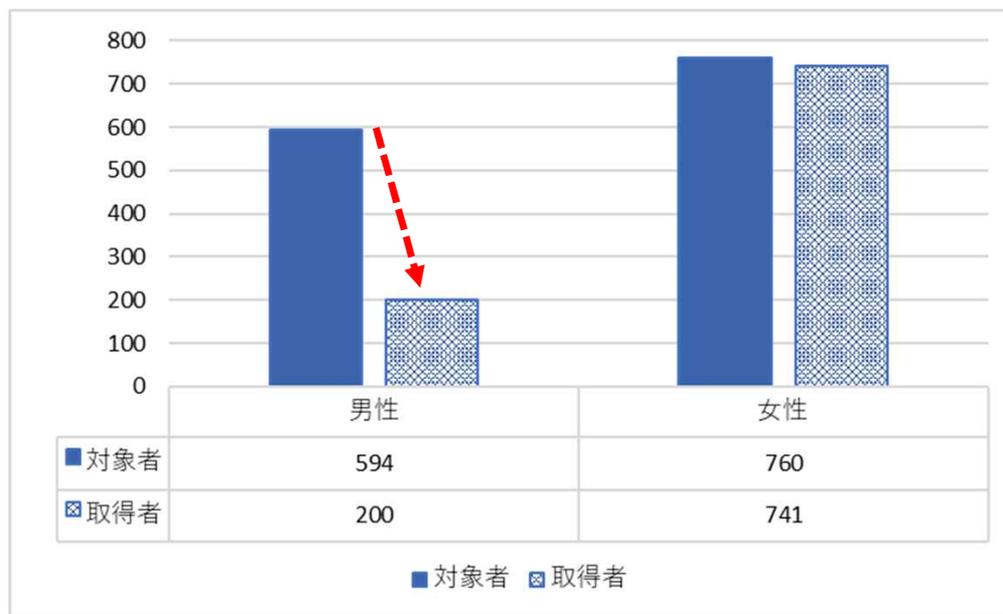
- ◆ 母親の就労状況については、「正社員・正規職員・会社役員」の割合が最も高く、R3内閣府調査と比較しても高い
- ◆ ひとり親(母子)世帯はふたり親世帯に比べて、「正社員・正規職員・会社役員」の割合が高く、R3内閣府調査のひとり親(母子)世帯と比較しても高い

【世帯状況別、母親の就労状況】



出典：令和5年子供の生活状況調査（徳島県）

○県内事業所における過去 1 年間の育児休業対象者数と取得者数について（本県）



◆ 女性の育児休業の取得割合は97.5%だが、**男性の取得割合は33.67%**にとどまっており、取得しづらい傾向がある。

N=371

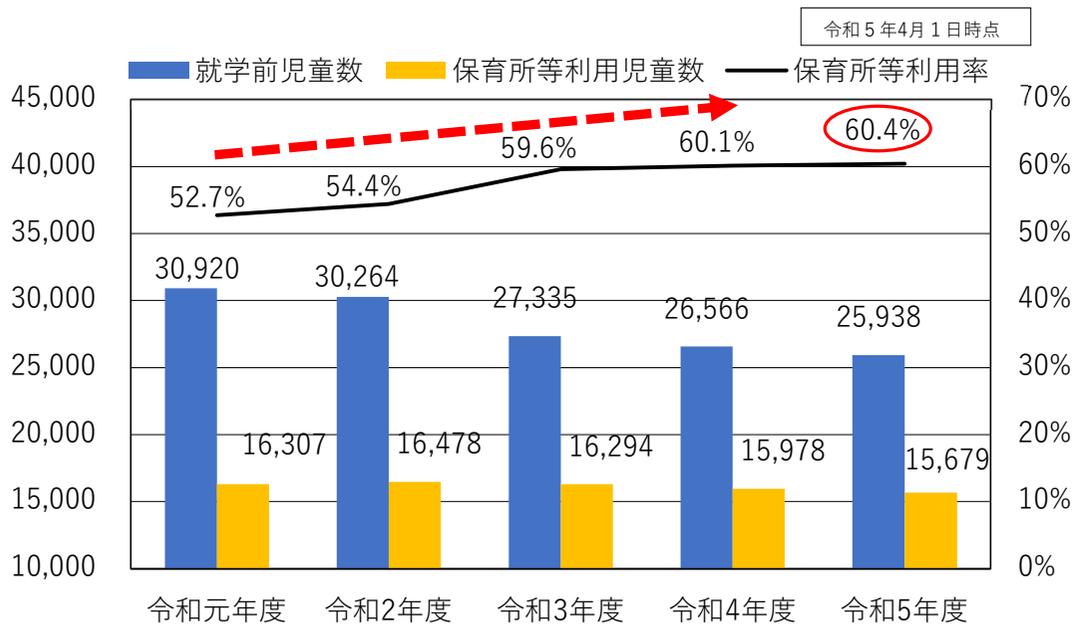
区分	対象者	対象者 企業数	取得者	取得者 企業数	取得割合	1ヶ月 未満	割合	1ヶ月 以上	割合
男性	594	207	200	93	33.67%	140	70.00%	60	30.00%
女性	760	275	741	271	97.50%	3	0.40%	738	99.60%

出典：令和5年度企業採用活動等実態調査（徳島県）

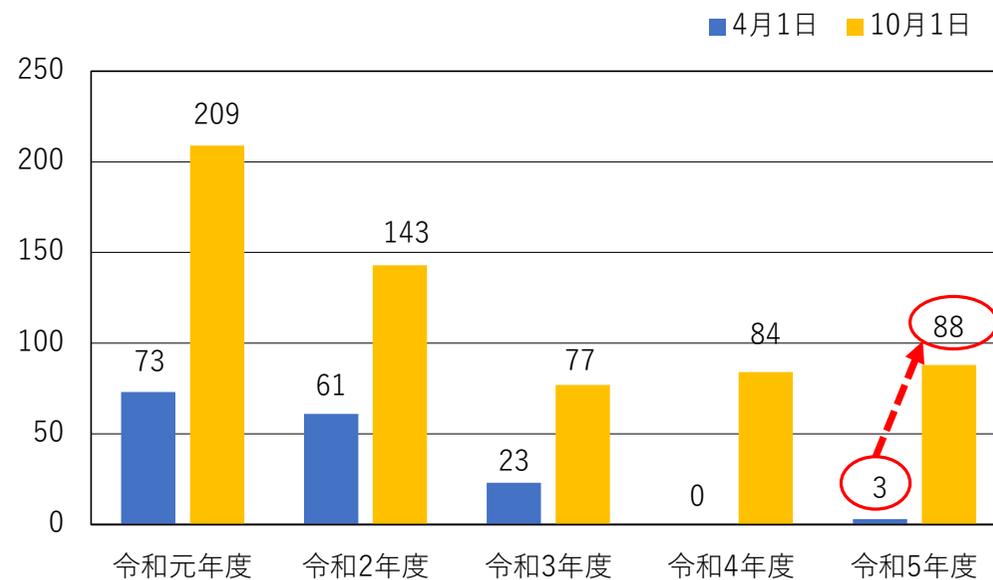
こどもを取り巻く現状と課題

○就学前児童数及び保育所等利用率、待機児童数の推移（本県）

就学前児童数と保育所等利用率の推移



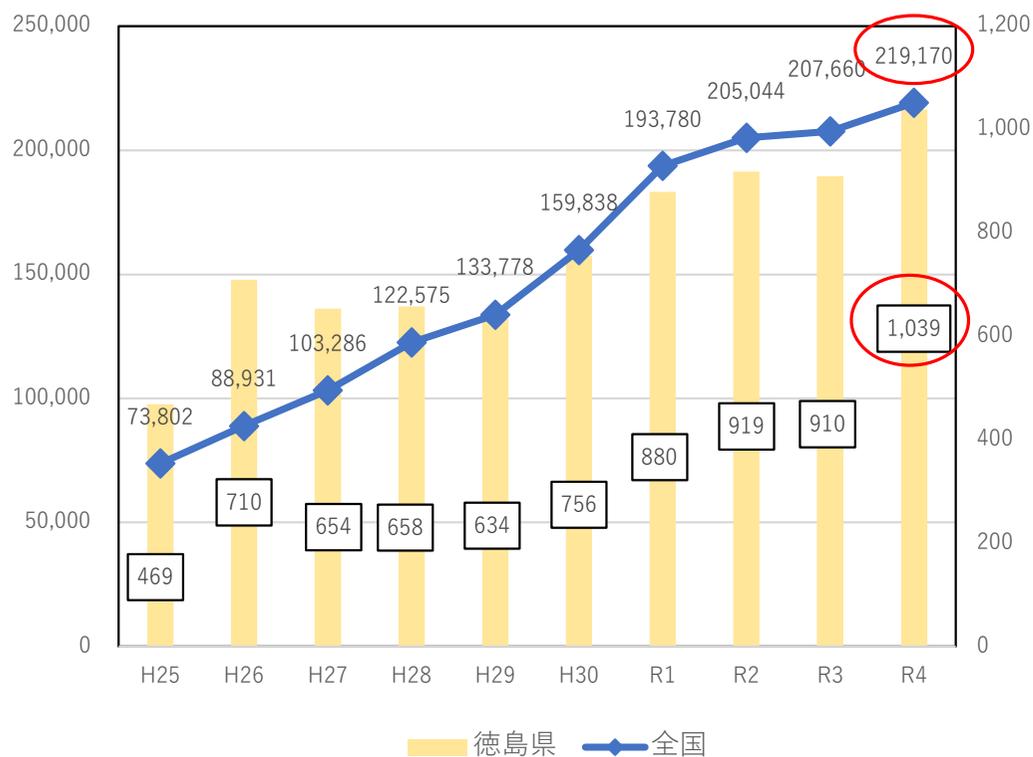
待機児童数の推移



- ◆ 就学前児童数は年々減少しているが、**保育所等利用率は上昇している。**
- ◆ **待機児童数は、年度当初はほぼ解消しているが、年度途中に発生している状況。**

出典：保育所等利用待機児童数調査（徳島県）

○児童虐待相談対応件数の推移（本県・全国）



- ◆令和4年度中に、全国の児童相談所が児童虐待相談として対応した件数は、219,170件で過去最多。
- ◆県こども女性相談センター（中央・南部・西部）における令和4年度の児童虐待相談対応件数は、1,039件であり、全国同様に過去最多。

出典：令和4年度福祉行政報告例（厚生労働省）

○一時保護の推移（本県）

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
一時保護児童数	156	193	167	185	197	169	216	187	146	166	215
一時保護延べ日数	2,422	2,551	3,323	3,943	3,213	2,829	5,573	4,018	5,673	5,483	6,770
うち保護所児童数	95	122	123	137	130	103	109	112	91	91	99
うち保護所延べ日数	1417	1812	2,252	2,748	2,064	1,692	2,824	2,547	2,978	2,837	3,132
うち委託児童数	61	71	44	48	67	66	107	75	55	75	116
うち委託延べ日数	1,005	739	1,071	1,195	1,149	1,137	2,749	1,471	2,695	2,646	3,638
一時保護委託割合	39.1%	36.8%	26.3%	25.9%	34.0%	39.1%	49.5%	40.1%	37.7%	45.2%	54.0%
平均委託日数	16.5	10.4	24.3	24.9	17.1	17.2	25.7	19.6	49.0	35.3	31.4

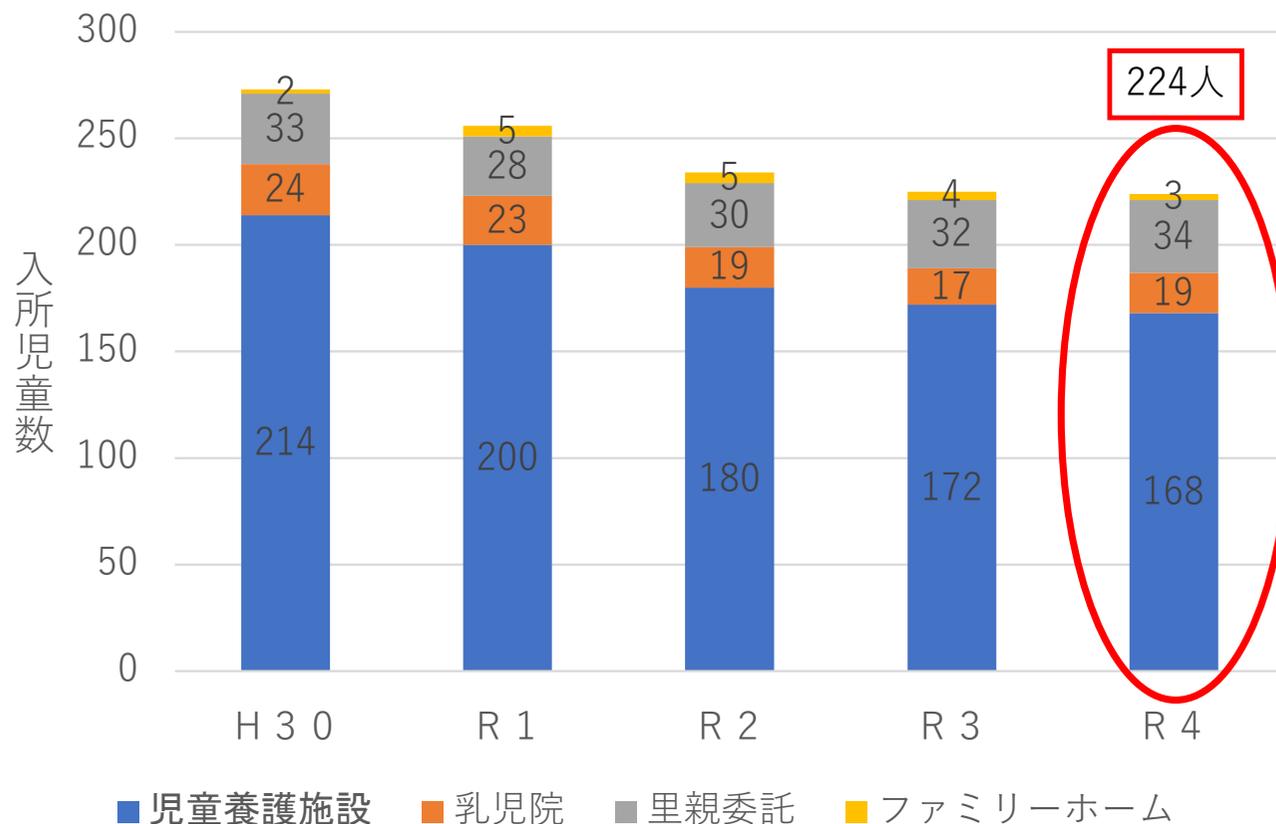
◆過去10年間で、一時保護児童数は、**1.38倍**（H24：156人→R4：215人）、
一時保護延べ日数は、**2.80倍**（H24:2,422日→R4：6,770日）に増加。

◆一時保護委託児童数は、**1.90倍**（H24：61人→R4：116人）
一時保護委託割合（H24：39.1%→R4：54.0%）、
平均委託日数（H24：16.5日→R4：31.4日）ともに増加。

※虐待を受けたこどもの一時保護は、「児童相談所が一時保護所で実施する場合」と、「児童養護施設等に委託して実施する場合」がある。

出典：令和4年度福祉行政報告例（厚生労働省）

○入所措置又は里親等委託されている子ども数の推移（本県）

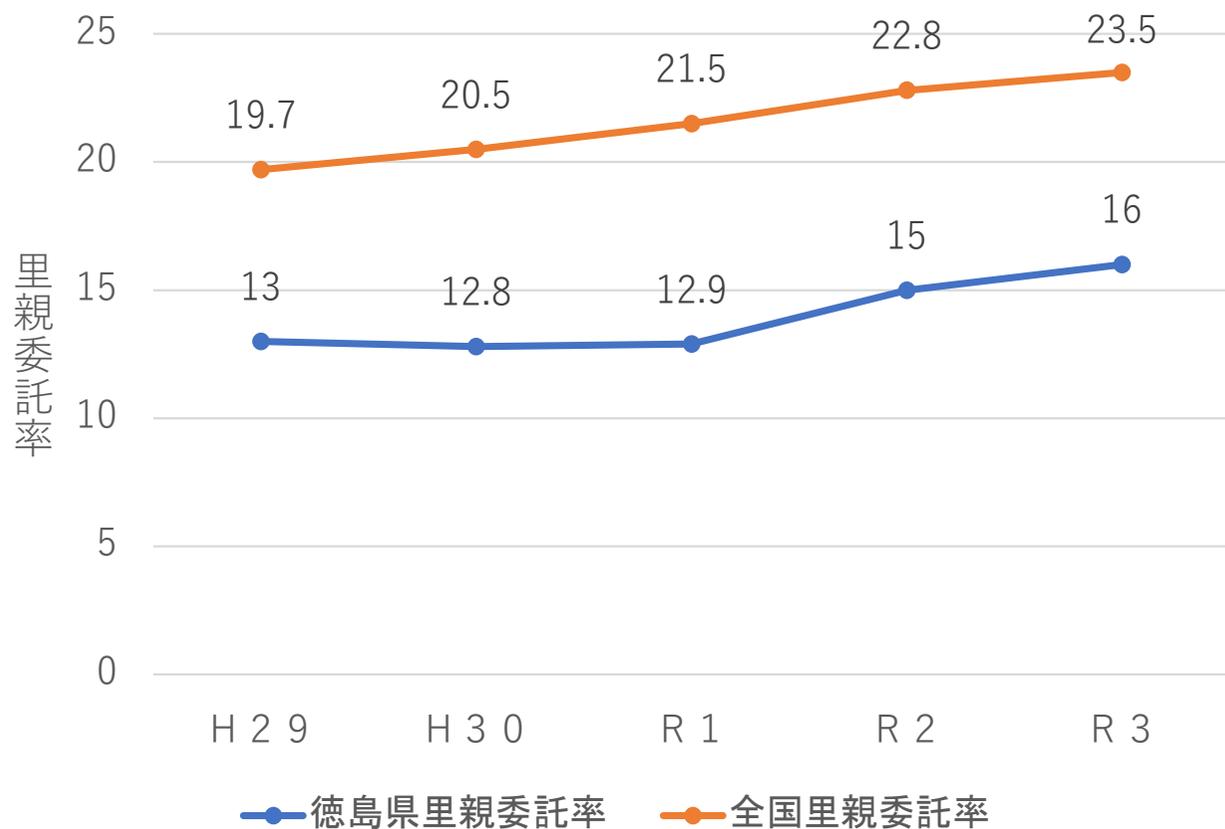


◆本県には児童養護施設が7か所、乳児院が1か所ある。

◆令和4年度は施設に187人（県外施設への入所者2名含む）が入所しており、里親とファミリーホームへの入所を含めると224人の子どもが委託されている。

出典：令和4年度福祉行政報告例（厚生労働省）

○里親委託率の推移（本県・全国）

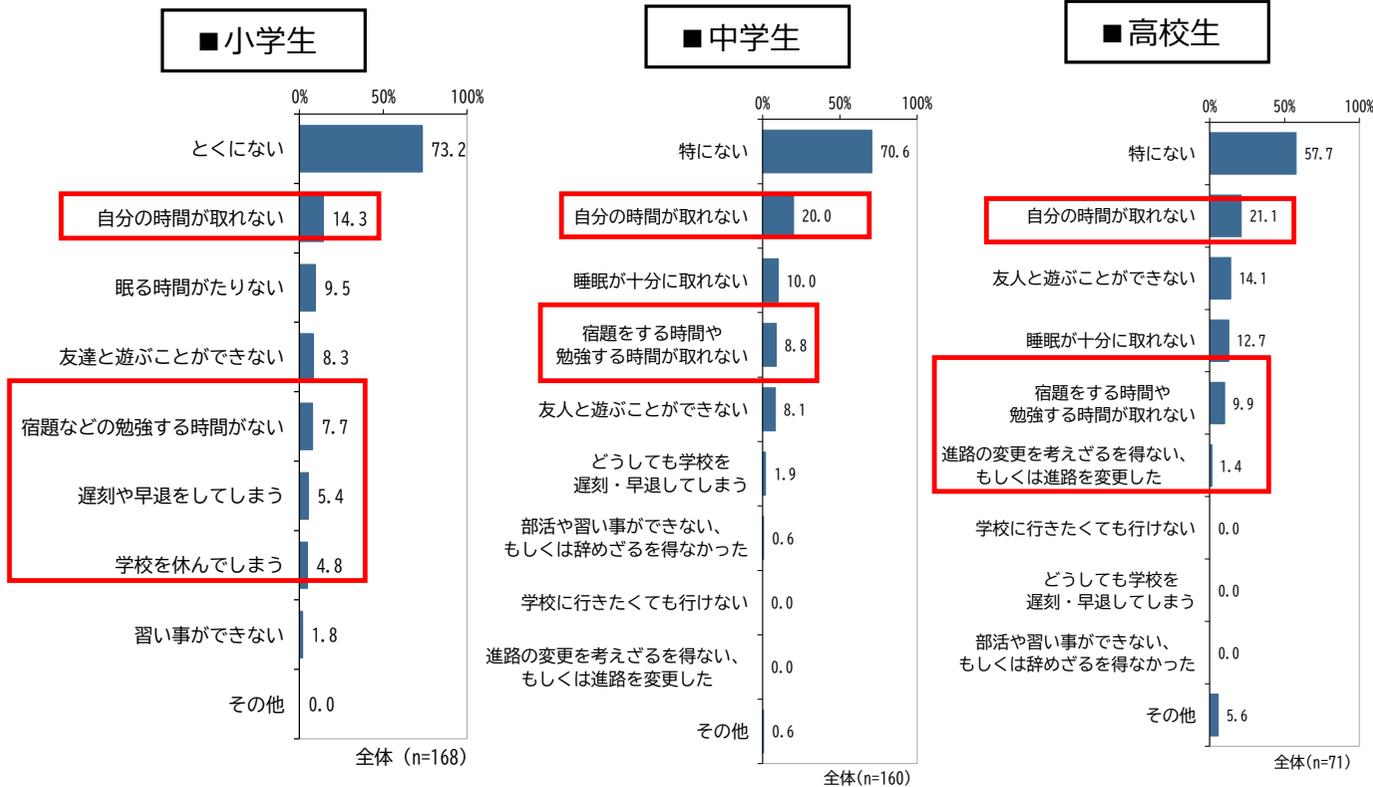


- ◆里親委託率は**上昇傾向**。
- ◆本県の里親委託率は**全国平均を下回っている**。

出典：令和3年度福祉行政報告例（厚生労働省）

○ヤングケアラーの状況（本県）

世話をしているためにやりたいけれどできないこと



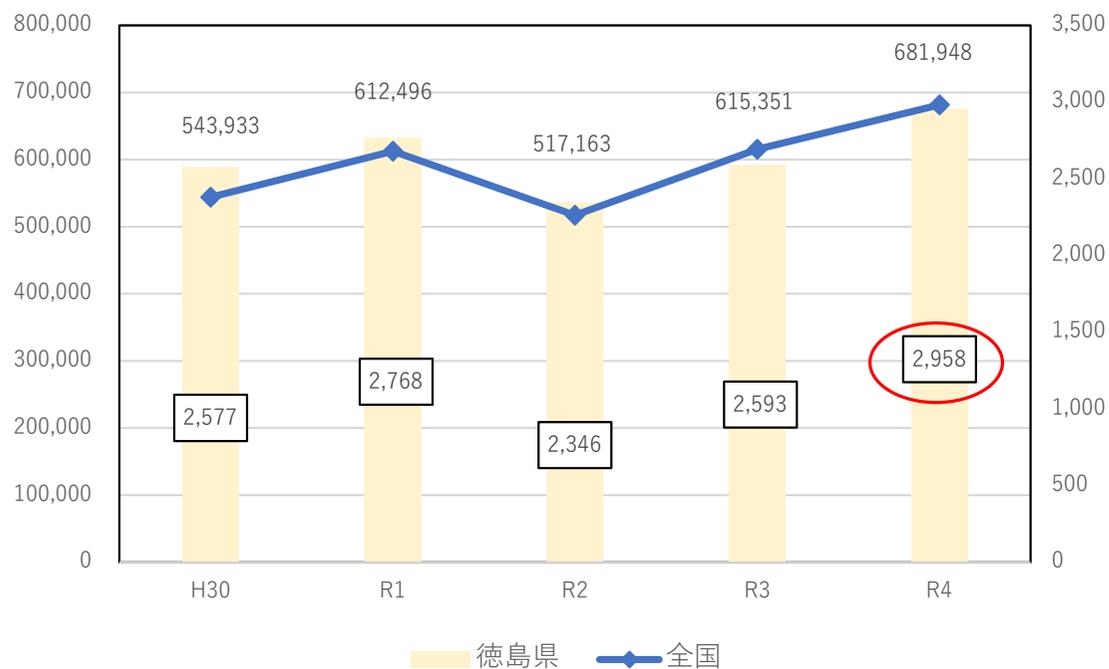
- ◆小中学生、高校生ともに「とくにない」が最も高く、次いで「自分の時間が取れない」が高い。
- ◆「勉強する時間が取れない」「進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路変更した」等、勉強時間や進路にも影響。

■調査期間：令和4年7月～8月
 ■調査対象者：公立小学校6年生
 公立中学校、県立中学校、県立中等教育学校（前期課程）1～3年生
 県立高等学校（全日制）、県立中等教育学校（後期課程）1～3年生

出典：徳島県ヤングケアラーに関する実態調査（徳島県）

○いじめの状況（本県・全国）

いじめ認知件数の推移

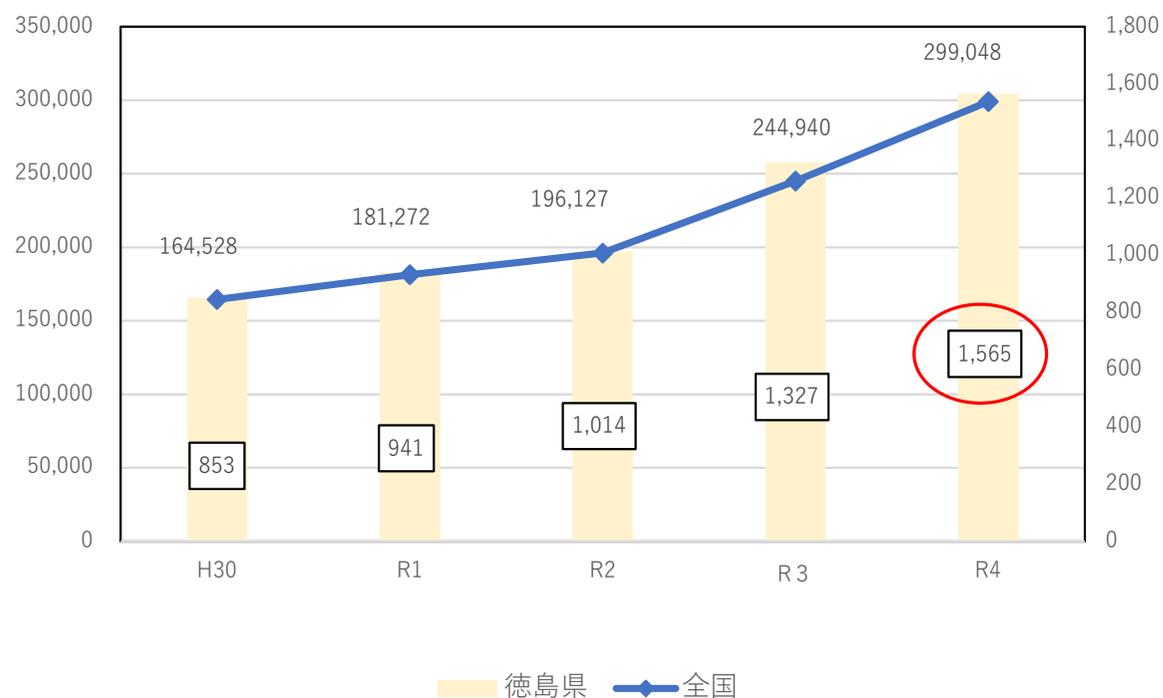


◆令和4年度の本県の小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめの認知件数は2,958件（前年度比365件増加）であり、**過去最多**。

出典：令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査（文部科学省）

○不登校の状況（本県・全国）

小学校・中学校の不登校児童生徒数の推移



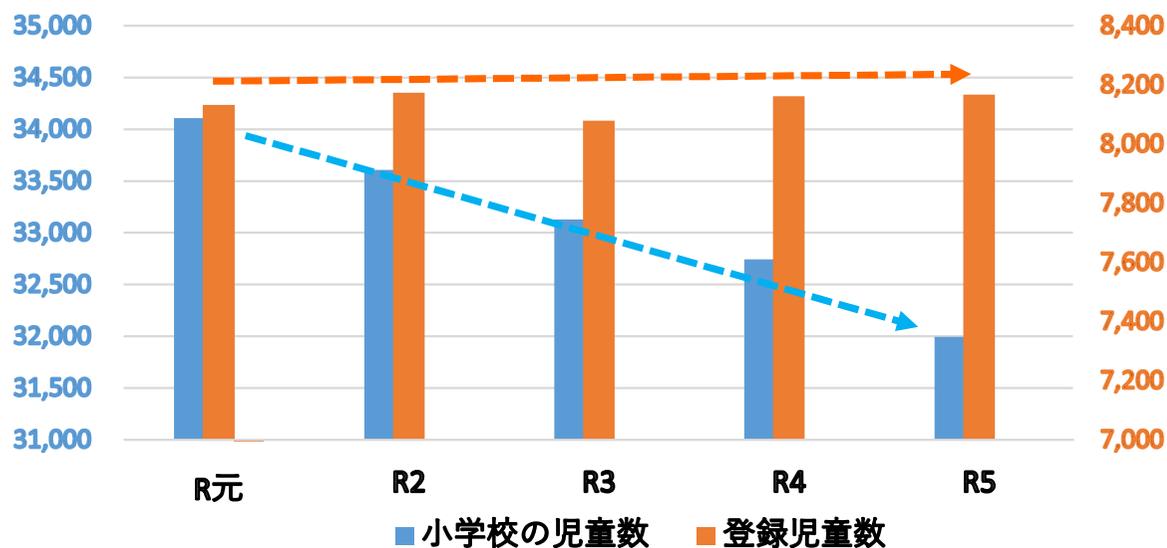
◆令和4年度の本県の小・中学校における不登校児童生徒数は、1,565人（前年度比件238人増加）であり、**過去最多。**

出典：令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査（文部科学省）

○放課後児童クラブ（本県）

	小学校の児童数	登録児童数	待機児童数
R元	34,109	8,132	38
R2	33,607	8,174	125
R3	33,128	8,079	43
R4	32,742	8,162	80
R5	31,995	8,167	83

小学校の児童数と登録児童数

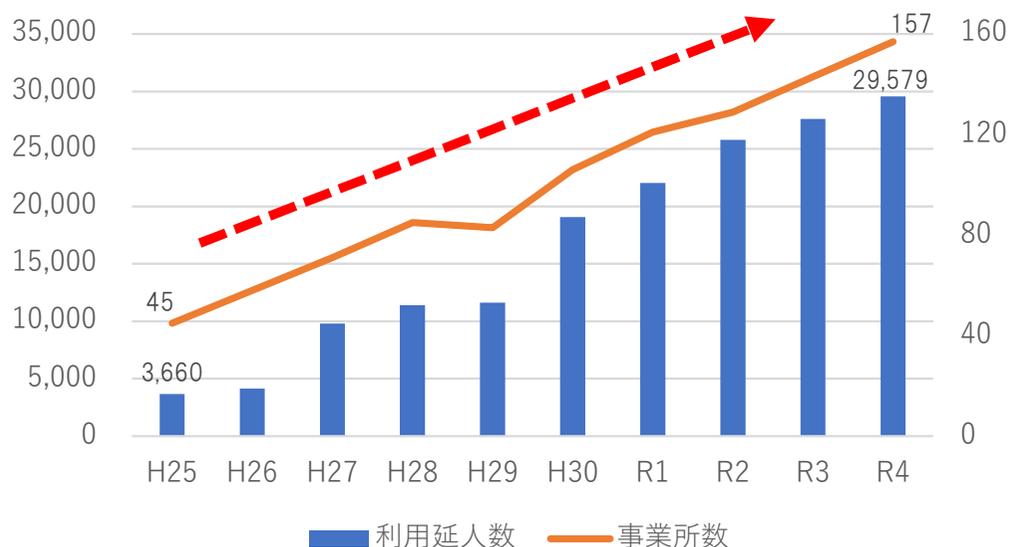


- ◆本県の小学生の数は令和元年度から令和5年度までに2,114人減少。
一方で、放課後児童クラブへ登録した児童は約8,100人を維持している。
- ◆待機児童は例年発生している。

出典：状況調査（こども家庭庁）、徳島県公立学校関係データ（徳島県）

○放課後等デイサービスの現状（本県・全国）

利用延人数、事業所数（県）



利用延人数、事業所数（全国）

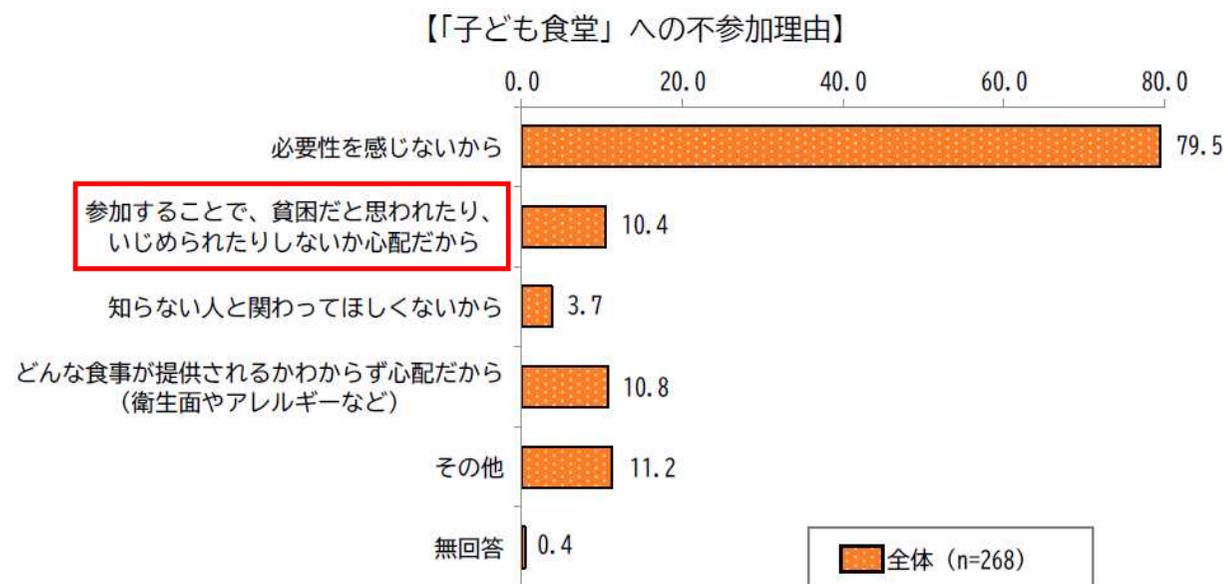
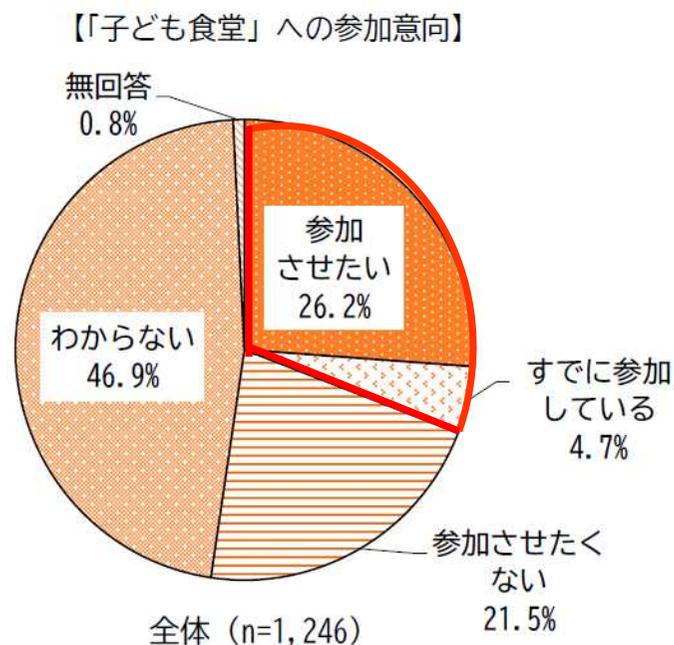


◆利用延人数及び事業所数とも**大幅な増加**を続けている。

※利用延人数：各年9月中
事業所数：各年10月1日現在

出典：社会福祉施設等調査（厚生労働省）

○こども食堂への参加意向（本県）

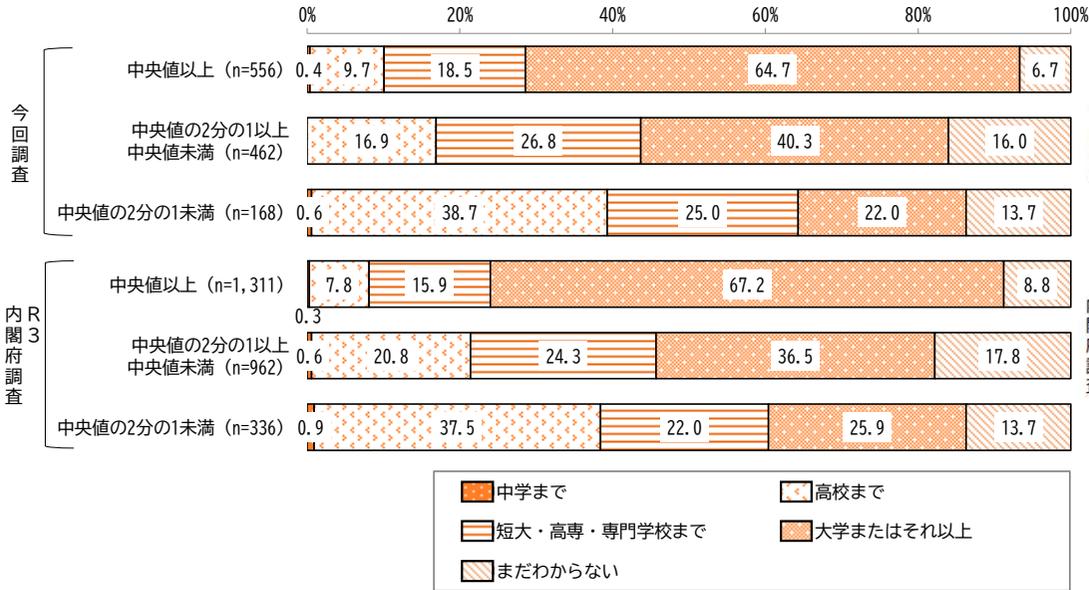


- ◆ 「こども食堂」への参加意向については、「参加させたい」（26.2%）、「すでに参加している」（4.7%）となっている。
- ◆ 「こども食堂」への不参加理由については、「参加することで、貧困だと思われたり、いじめられたりしないか心配だから」（10.4%）となっている。

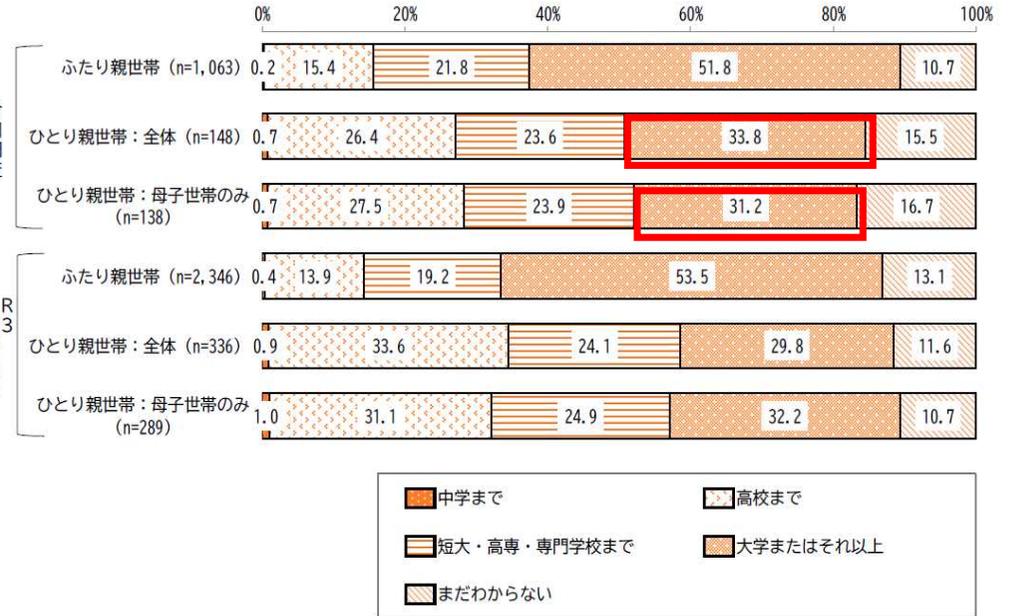
出典：令和5年子供の生活状況調査（徳島県）

○こどもの進学段階に関する希望・展望（本県・全国）

【等価世帯収入の水準別、子供の進学段階に関する希望・展望】



【世帯の状況別、子供の進学段階に関する希望・展望】



◆等価世帯収入の水準別、子供の進学段階に関する希望・展望については、**等価世帯収入の水準が低いほど、「大学またはそれ以上」の割合が低くなっている。**

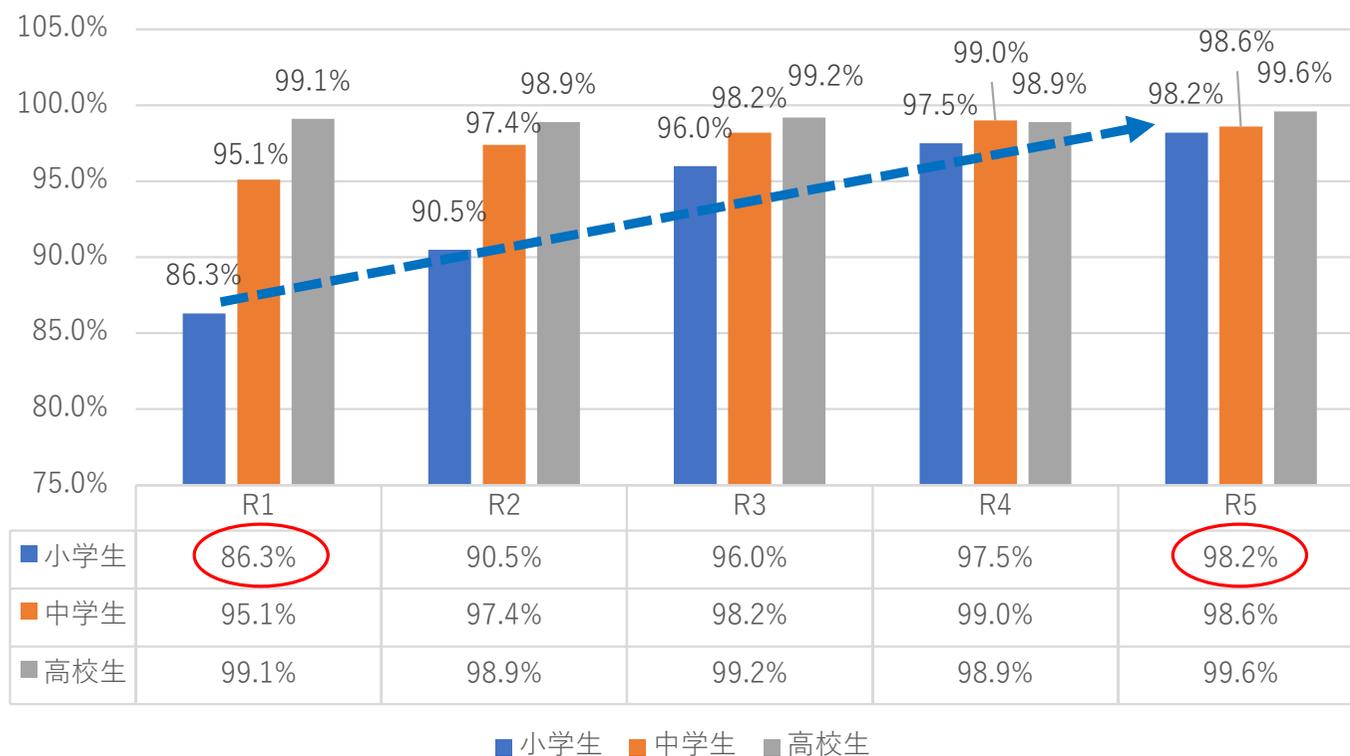
◆世帯の状況別、子供の進学段階に関する希望・展望については、「ひとり親世帯」では「大学またはそれ以上」の割合が低くなっている。

- 等価世帯収入（各収入の選択肢の年間収入の中央値をその世帯の収入とし、同居家族人数の平方根で調整したもの）
- 本調査「等価世帯収入の中央値：325.0万円」「等価世帯収入の中央値の2分の1：162.5万円」
- R3内閣府調査「等価世帯収入の中央値：317.54万円」「等価世帯収入の中央値の2分の1：158.77万円」

出典：徳島県 子供の生活状況調査（徳島県）

○こどものインターネット利用状況（全国）

こどものインターネット利用率(全国)



◆ 小学生のインターネット利用率が大きく伸びている。

出典：青少年のインターネット利用環境実態調査（こども家庭庁）